

＜過去1週間の動き＞

(9月23日～9月29日)

USD/ZAR: 14.5700～15.2000
ZAR/JPY: 7.35～7.54 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、下押しが先行。27日以降、対ユーロ、対円では下げ止まったものの、対ドルでは軟調気味の横ばいを続けた。ランド安先行は、ドル全面高の裏返しと言えたし、その後の対ドルでの軟調も、ドル全面堅調を反映した値動きと言えただろう。ドル全面高は、22日の欧州市場引け後に報じられた米連銀公開市場委員会の結果/パウエル議長発言などが、同銀による年内の資産購入額縮小(テーパリング)着手、来年央までの終了、早ければ来年末を待たずに利上げを開始する可能性を示唆したことが材料視された。一方で、23日の南ア準備銀金融政策委員会は、予想通りではあったものの全会一致(5対0)で政策金利据え置きを決定。同連銀の四半期予想モデル(QPM)が新たに年内の25b.p.利上げ開始を示唆した点を、「予想よりも鷹派的」と評価する声も一部には聞こえたものの、QPMが実際の金利見通しを占うには役に立たない(ほとんど参考にならない)のは広く共有された認識。それよりも、来年(+2.3→+1.7%)、再来年(+2.4→+1.8%)の成長率予想がそれぞれ大幅に引き下げられた点や、物価誘導目標水準引き下げに関する具体的な議論がなかった事実などが、むしろ、ランド売り要因と受け止められたのではなかろうか。23日以降急速に進んだ米長期金利上昇の余波は、時差と、24日が南ア休日だったことで、南ア国債市場には27日以降、利回り急上昇(価格は低下)という形で顕在化した。ランドは、南ア国債(の米国債への)連れ安を先取りして、24日に前後して急落、27日には下げ止まってしまったように見えた。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/23	13:01	南ア準備銀レボ金利		3.50%	3.50%	3.50%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(9月30日～10月6日)

USD/ZAR: 15.000～15.400
ZAR/JPY: 7.20～7.45

向こう1週間の南ア・ランド相場は、もう一段の下押しを予想。この間のランド安の大半がドル高の結果であるならば、当面のランド動向も、ドルの強弱に左右される可能性が高いのではないかと。ドルは、29日までに、主要通貨に対して、それぞれ複数ヵ月ぶりの高値を更新しており(注1)、このままあっさり反落するより、少なくとも数日は上値余地を試していく可能性が高いものと見込む。ただし、ドル/ランドが直近高値(ランドの安値/8月20日の15.3950)を上抜け、取引水準をもう一段切り上げるかという点、そこまでのランド安を見込む根拠にも乏しい気がする。上述の通り、対ユーロ、対円などでランドは既に底打ちの兆しを見せており、ドル側の要因だけで、ドル/ランドが取引水準を切り上げるような値動きも見込み難いように思われる(勿論起り得るが)。足下ドル高地合で、仮に、ランド側に売り要因が見つければ状況は一変するだろうが、そのようなきっかけとして現実的に想定されるランド売り要因には、①南ア貿易条件悪化の確認 ②南ア政局の不安定化などが挙げられよう。①は、30日発表の南ア8月貿易収支に注目しておきたい。南ア貿易/経常収支の改善(注2)が予想外に(長期間)定着していると言われて久しいが、南ア貿易条件の代理変数として有効と思われるランド建プラチナ価格がピークを打ったのは今年2月のこと。足下、既にコロナ禍本格化前の水準まで低下している事実を鑑みると、市場の大幅黒字予想は、随分と楽観的なようにも見える。②に関しては大手労組全国金属労働者組合(NAMSA)が10月5日から予告しているストライキの動向に留意。争点は賃金交渉に過ぎないが、万が一、7月に起きたような暴動/略奪に発展するようなことがあれば、11月1日の地方選前に与党アフリカ民族会議(ANC)とラマポーザ大統領が被る痛手は小さくはないまい。

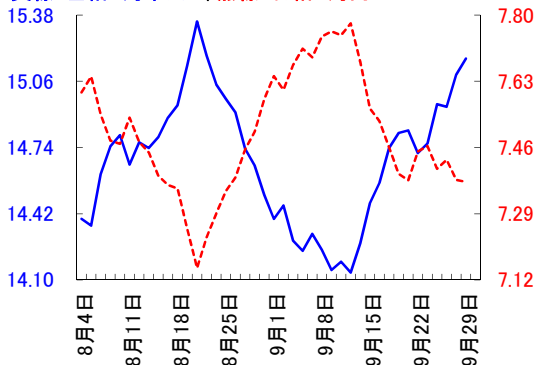
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/30	6:00	民間部門信用(前年比)	8月		+1.00%	+0.70%r
	12:00	貿易収支(ZAR)	8月		+35.0bn	+37.0bn
	12:00	財政収支(ZAR)	8月		-40.5bn	-133.2bn
10/1		自動車販売台数(前年比)	9月		+12.0%	+24.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

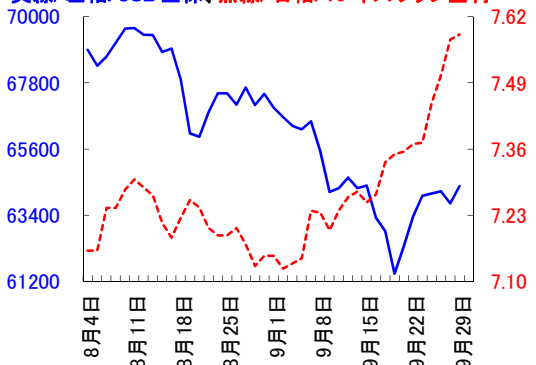
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	9月29日	7.565%
株価指数(JSE全株)	9月29日	64363.66
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	8月	+4.9%
小売売上高(前年比)	7月	-0.8%
製造業生産(前年比)	7月	-4.1%
鉱業生産(前年比)	7月	+10.3%
貿易収支(ZAR)	7月	+37.0bn
金価格(ロンドン 17:00)	9月29日	1730.66

直近足(5分足なら16:55(15:55 BST)、1分足なら16:59(15:59 BST)の終値)

(注1) ユーロは20年11月以来、円は20年2月以来、ポンドは20年12月以来の安値をそれぞれ更新

(注2) ひいては財政収支も改善

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。